

テーマ：ロイター短観（2013年1月）

発表日：2013年1月24日（木）

～円安・株高を背景に先行きへの期待感が高まる～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 大塚 崇広

TEL：03-5221-4525

		製造業DI												非製造業DI							
		素材型						加工組立型							不動産・建設	卸売	小売	通信・情報サービス	運輸・電力	その他サービス	
		繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄			食品	金属・機械	電機	輸送用機器	精密機器・その他									
2011	6月	▲3	▲17	▲40	▲14	0	▲10	4	38	21	▲4	▲16	▲17	▲10	▲21	5	4	0	▲27	▲14	
	7月	1	▲10	▲30	▲5	0	▲11	9	13	25	8	0	▲15	3	▲13	16	14	21	▲7	0	
	8月	6	0	▲30	16	0	0	11	▲20	9	8	29	9	7	▲9	18	13	25	▲12	13	
	9月	8	2	10	5	0	▲12	10	0	9	5	27	9	3	▲12	12	9	19	▲7	7	
	10月	6	2	▲11	11	0	0	9	0	0	4	33	7	1	▲13	16	▲4	15	▲8	7	
	11月	1	5	0	5	0	12	▲1	0	▲16	▲5	29	▲7	3	▲19	16	5	27	▲12	13	
	12月	▲5	▲6	▲20	▲5	▲12	12	▲4	0	▲10	▲4	7	▲9	6	▲8	26	4	27	▲4	10	
	2012	1月	▲5	▲4	0	▲5	▲12	0	▲6	17	▲10	▲29	14	7	6	▲15	6	8	8	0	22
		2月	▲11	▲8	▲9	0	▲12	▲22	▲13	0	▲28	▲29	14	8	5	▲5	18	4	▲8	0	18
		3月	2	4	11	5	▲12	14	0	0	▲9	▲8	27	0	5	▲16	17	0	13	▲9	24
		4月	1	▲6	▲33	5	▲15	0	6	33	5	▲9	15	7	10	10	6	▲15	7	0	42
		5月	2	2	0	4	0	0	3	20	3	▲6	12	0	11	0	9	0	27	▲8	38
6月		▲3	▲2	9	▲5	0	▲11	▲4	20	3	▲12	0	0	11	0	16	11	37	▲3	13	
7月		▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	16	
8月		▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	17	
9月		▲5	▲6	▲9	▲13	0	11	▲5	25	▲4	▲13	6	▲7	7	▲9	12	▲5	20	▲4	26	
10月		▲17	▲13	▲20	▲17	0	0	▲20	0	▲18	▲27	▲11	▲25	7	▲9	15	0	10	▲4	25	
11月		▲19	▲15	▲18	▲19	0	▲13	▲21	20	▲32	▲28	▲24	0	1	0	6	0	10	▲20	14	
12月		▲18	▲14	▲17	▲19	0	▲11	▲20	20	▲22	▲34	▲17	▲9	5	10	5	▲5	14	▲13	18	
2013	1月	▲17	▲15	▲30	▲9	0	▲22	▲18	20	▲20	▲25	▲19	▲9	10	9	18	5	29	▲16	25	
3ヵ月後見通し		1	2	▲20	9	12	0	1	20	4	0	▲6	0	18	18	25	0	41	▲12	39	

（出所）ロイター「ロイター短観」

○製造業DI：円安・株高を背景に先行きへの期待感が高まる

1月ロイター短観（調査期間1月8日～1月21日）の製造業DIは▲17（12月：▲18）と前月から小幅改善した。足元、円安・株高が進んだ割にはやや慎重との印象だが、背景には「先行きに明るさに見えるものの、足元は決してよくない」（ゴム）、「円安・株高で景況感は改善してきているが、業況に反映するのはまだ先」（化学）というように、円安・株高は好感しつつも、その効果が実需に反映されるのはもう少し先との見方があるようだ。それでも、弱含んでいた製造業DIが足元下げ止まっていることはポジティブなことと言えよう。エコカー補助金終了後の自動車販売の減少には歯止めがかかってきたことに加え、日中問題も最悪期を脱した模様であり、企業マインドは底打ちしたものとみられる。

一方、3ヶ月後の見通しは+1と1月実績（▲17）から大幅な改善が見込まれている。足元の景況感こそやや慎重なものであるが、円安・株高の進展は先行きへの期待感を高めている。自動車販売の下げ止まりに加え、輸出も海外経済の回復や円安を受けて持ち直す可能性が高く、製造業DIも改善が期待できよう。

○非製造業DI：7ヶ月ぶりの2桁水準。先行きも一段の改善見込み

非製造業DIも+10（12月：+5）と改善した。非製造業DIはここ数ヶ月はやや息切れ感がみられていたが、1月は7ヶ月ぶりに2桁水準を取り戻している。業種別にみると、不動産・建設が住宅ローン金利の低さや復興需要等によって改善基調を保っていることに加え、情報通信・情報サービスやその他サービスも良好な水準を保っている。製造業の不調を背景に弱含んでいた卸売も一段の悪化は避けられていることに加え、小売も「新車販売が好調」、「消費低迷は切り抜けた感がある」（小売）と自動車販売の下げ止まり等を背景に6ヶ月ぶりにプラス圏に戻っている。

非製造業の3ヶ月後の見通しは+18（1月実績：+10）と一段の改善が見込まれている。円安・株高や新政権の経済対策を背景に非製造業も先行きに対する期待感が高まっている。ほぼすべての業種で一段の改善を見込んでいるが、小売については0（1月実績：+5）と低下が見込まれている。自動車販売は下げ止まってきたものの、雇用・所得環境の弱さを背景に個人消費の先行きについては慎重な見方が多いようだ。



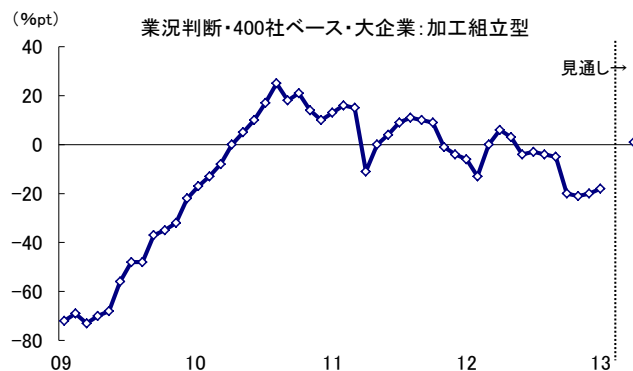
（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」